



Tosa Junior & Senior High School

# 振興会だより

編集責任者 広報担当 島内祥宏 発行者 振興会会長 徳永俊一

2007年(平成19年7月発行)



新校舎建築の寄付金続々と！  
～旧須崎支部、一宮・泉野・秦支部さんから～

左から、岡内募金委員長、池上校長、徳永振興会会長

## 新校舎建築協力金2,000万円を寄付！

去る6月15日、新校舎建築募金委員会に振興会から2,000万円を寄付致しました。校長室にて、振興会会長の徳永俊一より、募金委員長の岡内紀雄さん(学校理事)に目録が手渡されました。これは、平成15年度から評議員会の承認を得て毎年500万円ずつ積み立ててきたものです。

- 校長室だより
- 教頭の仕事を引き継いで
- 県体・四国大会の結果報告
- 平成19年度大学合格実績
- 82回生の受験を振り返って
- 進学講演会
- 芸大教授がオケ部を指導
- 高校生のための金曜講座開講
- Nice to Meet you!  
～新任のアンドリュウ先生に自己紹介していただきました～
- 公明正大な新校舎建築プロジェクトに参加して
- 第14回連絡協議会報告
- ご存知ですか? エコ箸

## H18年度 第52回青少年 読書感想文コンクール

最優秀 中2 若槻真梨子(現中3)  
中3 安岡 麻乃(現高1)

学校賞 高知県教育長賞(中学校)

青春、汗、情熱。今、輝いて。

## 第14回連絡協議会報告

7月3日午後5時半より、土佐中高等学校2階会議室において、学校と振興会とで定例の連絡協議会が行われました。

まず開会にあたり、徳永振興会会長より挨拶が述べられ、続いて池上校長より次のような報告が行われました。

1. 振興会から新校舎建築募金委員会への寄付に対する御礼。

2. 支部総会での質問内容の紹介など。

3. 校舎建築プロジェクトの進捗状況。

4. 新校舎建築についての保護者への説明会が7月16日開催予定。

その後、井上新教頭先生と、三浦教頭先生よりご挨拶があり、次に各部より以下のようなお話がありました。

《環境部より》仁尾先生  
・新校舎のトイレを「清潔で手入れのしやすい」ものにする為、見学を行っている。

《進路部より》岡松先生  
・来年より、高知大医学部の受験制度が大きく変わるため、

《生徒部より》矢野先生  
・ノーステッカー自転車に対する指導、また、傘さし・無灯火・並進等、ルール・マナー違反者に対しての街頭指導も行っている。

《図書部より》鎌田先生  
・新校舎になるにあたり、既存のものとは違う生徒・教員・保護者が利用できるコミュニティセンターの様な新しい図書館づくりを目指して頑張っている。

《教務部より》島崎先生  
・履修漏れへの取り組みは万全である。

《特活部より》酒井先生  
・雨の日に遅刻者が増加しているため、より細やかな指導を行う。

県内生には受けやすい状況になっている。また、受験に向けた面接の説明会を行い、多数の生徒が参加した。

《事務長より》大野事務長  
・新入生保護者より、合計3千300万円の学校債協力を頂いたので、当面運用させて頂く。

その後《振興会より》  
・振興会だよりでは、家庭でも取り組むべき課題について、できるだけ先生方のお声も反映した内容にしたい。

《広報部より》小村先生  
・学校説明会についての近況報告。学校案内を新しいものにする予定。

活動などに取り組み始めた。今後生徒が主体となった継続的な活動となることに期待したい。

購入予定のパソコンのうち2台を予算の少ない文化部に、希望があれば、貸出予定。

最後に、徳永会長の閉会の挨拶で、連絡協議会が終わりしました。



お忙しい中、ご参加下さった先生方には心より御礼申し上げます。今後とも、ご協力をどうぞよろしくお願致します。

振興会理事 福島高明

ご存知ですか?  
H17箸

もうお気づきの方もいらっしゃると思いますが、この春から、前環境部長の福留正仁先生のご提案により、食堂のお箸が割箸からプラスチック製品に変わりました。これにより、毎日土佐校から出ている大量のゴミが激減しました。これは単に土佐校のエコ活動が一つ増えたというだけでなく、未来を担う子供達にエコロジーを理想にとどめず、実践することの大切さと有効性を教えるのに非常に役に立ったのではないのでしょうか。これを機会に、改めてご家庭でも身近な所から出来るエコを子供達と一緒に始めて頂けたらと思います。



振興会理事 西村希多子



今年はず梅雨の様相で水不足と猛暑が心配される今日この頃ですが、振興会の皆様には如何お過ごしでしょうか。平素は学校運営ほかに格別のご支援、ご協力を賜わり心より感謝申し上げます。

**一、大学入試結果と新高3生への期待**  
 本年卒業の82回生は、昨秋以降の未履修問題という逆境をお互い励まし合って、見事克服し、現役合格率80.02%（昨年65.7%）と目ざましい躍進を遂げてくれました。詳細は進路指導

部編「進学の手引き」（平成19年度）をご覧ください。また、今年度は更に意欲的な進学希望を掲げております。そして本年度最初の全国模試の成績も昨年度にほぼ匹敵する好成績を修めております。本学は未履修問題のクリアーという課題を背負った上のことでもあり、校内あげて皆の希望が叶うように全面的にバックアップして参る決意でございます。

**二、新校舎建築プロジェクトの推進**  
 1. 施工業者が決定しました。  
 7月5日の評議員会、理事会で施工業者として清水建設・新進建設JVを最終決定していただきました。これより先、6月5日の臨時理事会において、応募いただいた元請施工業者及びコストオン対象工事の応募者の中から最優先交渉先として清水・新進JVを承認いただき（コストオン方式による対象工事施工業者については残念ながら不採用）、限られた事業予算を前提として、

見積り合わせ方式による更なる工事費低減と、工事中のより良い教育環境の保持を目指した施工計画の検討を重ねて参りました結果、ようやく当初計画に近い本体工事三十五億一千二百万円（税抜き）で合意に至りました。また工事工程についても最も騒音、震動、塵埃が発生するアスベスト除去及び旧校舎取り壊し作業を夏休み期間を中心に実施するよう見直しをいたしました。その結果全体工程としては、本年10月工事着工、20年6月高校棟、体育館竣工、20年引越し、夏休み以降旧高校棟解体、20年10月中学棟着工、21年6月中学棟竣工、21年引越し、夏休み以降旧中学棟解体、21年11月末全体竣工を予定しております。なおこの見直し工事工程及び工事中のより良い教育環境の保持の為に、7月16日（祝）高知会館にてご説明を申しあげご理解をいただくよう予定しております。

2. 「向陽グラウンド」完成  
 新校舎建築プロジェクトの第二歩として18年4月より長浜に建設中でしたグラウンドが3月18日完成し、竣工式典を行いました。生徒達からの名称募集により「向陽グラウンド」と命名。高校野球とサッカーの練習場として使用を始めております。今後両部の活躍が期待されます。

3. 「新グラウンド」の整備  
 新校舎建築プロジェクトの着工に備えて、北竹島町の新グラウンドを整備いたします。駐輪場、クラブ部室、教員控え室の準備のほか老朽化の目立つトイレ棟も全面的に改修いたします。また特に体育授業での生徒の行き帰りの安全と時間短縮を考え、必要に応じてバスでの輸送についても検討したいと考えております。

**三、新校舎建築募金活動について**  
 振興会、同窓会、学校が三位一体となって募金委員会を結成し、岡内紀雄委員長（34回生）を中心として4月1日より向こう

5カ年間の日程で目標額四億円（総工事費の約1割）の募金活動がスタートいたしました。同窓生約一万五千人宛に「募金のお願い」趣意書を送付させていただきました。またそのほかに在校生の保護者及び学校関係の個人、法人を対象として募金委員の皆様が委員会別注の名刺をもって募金のお願いの活動も始めております。ちなみに7月11日現在の募金件数は835件、金額は七千七百八十三万六千九百六十八円となっております。このほか振興会様からは、かねて積立ていただいております新校舎建築協力金二千万円を、6月15日に徳永振興会会長様より岡内委員長に贈呈していただきました。誠に感謝に堪えないところでございます。有難うございました。

教頭の仕事を引き継いで 井上 聖香

土佐高校にお世話になり始めたのが昭和43年でした。今では職員として、あの旧校舎を知っているものが少なくなっています。以来40年。4代の校長先生、そして多数の先生方にお世話になり、生徒と楽しく過ごしているうちに、何をしてもなく、あつという間に今になってしまいました。校長室で曾我部校長から「3年はやってくれ」と言われたのがほんのこの間のこのように懐かしく思い出されますが、3年で自分の力がつくわけではなく、自分の英語力アップを最重要課題として、ひいては生徒の英語力アップにつながるという考えでやってきました。研究会に出、外国に行き、本を読み……。それが、指導部長になったために、高3だけを教えることになり、長いスパンで生徒と関わることから離れてしまいました。定年の年を迎え、英語だけを教えてほしいということになると考えていた矢先、今度は教頭ということと、さらに英語の授業からさえも遠ざかってしまうことになりました。指導部長としての5年間には、中1から高3、あるいは浪人生、そして進学状況を含め全国の教育の動向を全体として眺めることができました。そしてそこからたくさんのものを得ました。

少しでも報いることができるといふ気持ちと、部長とか、学年主任としてではなく、学校全体の立場から、色々学ぶことが多いのではないかと期待してお引き受けしました。しかし、これまでに生徒たちから受けた「教育」と同じく、先生方からもたくさん指導を受けています。小さなミスが大きな影響を与えるということも痛切に感じています。4月から3ヶ月が経ちましたが、教頭として何をすべきがよくわからないまま、書類の処理、会議など、日々の仕事に追われていきます。どれにしてもほとんど三浦教頭の下、おんぶにだっこですが、早く独立できるように努力します。教室に通うことで少しは保っていた運動量がめっきり減りました。

メタボリックシンドロームに陥らないよう頑張りたいと思っております。よろしくお願ひします。

今回教頭を引き受けるに当たり、今まで勤めさせていただいたことに対して、



高知県体育大会 結果

- 優勝**  
**団体**  
 バドミントン(男子) ⇒ インターハイ出場決定  
 テニス(女子) ⇒ インターハイ出場決定  
 登山(4年連続) ⇒ インターハイ出場決定

- 優勝**  
**個人**  
 陸上：男子1600mリレー ⇒ インターハイ出場決定  
 "：女子400m 深谷、女子800m 小野  
 柔道：90kg級 尾木 ⇒ インターハイ出場決定  
 バドミントン：男子ダブルス 永野・川崎 ⇒ インターハイ出場決定  
 自転車：スクラッチ 山下  
 テニス：女子ダブルス 小川・森 ⇒ インターハイ出場決定  
 "：女子シングルス 森 ⇒ インターハイ出場決定  
 水泳：男子200m平 北村、800mリレー  
 "：女子200mバタフライ 森下

- インターハイ出場種目**  
 陸上：男子400m山下 ⇒ インターハイ出場決定  
 "：女子1600mリレー ⇒ インターハイ出場決定  
 空手道：女子組手 佐々木 ⇒ インターハイ出場決定  
 "：女子形 佐々木 ⇒ インターハイ出場決定

(7月6日付)

四国体育大会 結果

- 優勝**  
**団体**  
 登山 3S 岸野一石 2K 藤崎広豊  
 1H 賀門尚士 3K 石田優季
- 優勝**  
**個人**  
 陸上：男子1600mリレー  
 3N 山崎賢一 3S 田口現貴  
 1S 松岡優毅 3T 山下康平



今春の卒業生（82回生）は、授業に臨む姿勢がよく、各先生の評価は非常に高かった。また模試成績も上位の層が厚く、結果が期待されていたが、それに十分にこたえられた内容であった。東大、京大、阪大で2桁の合格者が出たのを始め、難関10大学（旧帝大7校+一橋・東工・神戸）の合格者は60名を超え、現役合格率は80%に乗った。

入試では徳島大、佐賀大に合格。浪人生の頑張りも目を引く。東京医歯大、名古屋大、大阪大、広島大と医学部の中でも最難関の大学に合格、自治医大は2名とも本校生であり、医学部に強い本校の特徴が今年も維持できた。今春入試結果が、このような好成绩をあげた原因として、現役生がセンター試験難化、未履修問題にも動揺することなく、平常心で最後までお互いに励ましあひながら努力したことがあげられる。また、浪人生が着実に力をつけ、難関大学・医学部の合格につながったことも大きい。

82回生の現役と1浪の合格者計は、東大（4+3）一橋（4）東工（2）京大（8+4）阪大（8+5）であり、立派な成績となる。

この結果を今年限りのものとせず、これらにつなげていくことが重要だと考える。

大学名	19年	18年
北海道大	4	2
東北大	1	3
筑波大	2	6
東京大	11	6
東京工業大	1	4
一橋大	1	4
横浜国立大	4	2
名古屋大	3	1
京都大	12	10
大阪大	18	11
神戸大	6	11
岡山大	14	10
広島大	6	7
徳島大	8	4
香川大	2	2
愛媛大	7	5
高知大	30	22
(うち医学部)	14	8
九州大	6	3
首都大学東京	4	1
高知女子大	2	1
慶応義塾大	19	17
上智大	5	9
中央大	17	22
東京理科大	26	15
早稲田大	27	24
同志社大	34	45
立命館大	86	92
関西大	28	29
関西学院大	57	37
高知工科大	9	4
国立医学部	24	15
私立医学部	17	6

進路指導部長の岡松先生は、「この学年は、非常にこまめに学習指導を行った。この指導を『締め付け過ぎでは』という意見も一部ではあったが、生徒たちは、それを肯定的に受け止めていたように思われ、その結果、真面目に学習に取り組む学年」という姿勢が形作られたことが、良い成績につながった。」と評価して下さいました。

まず、こまめに学習指導ができたのは、土佐校では初めて担任団にお二人の女先生、山下・島内先生がいらしたお陰だと思えます。女先生ならではの、生徒一人一人に対する細やかな心配りが、学年全体の指導の基調となりました。「締め付け過ぎでは」と評された指導も、広報部長の小村先生が集計して下さった学校生活アンケートによると、高3になっても「学校はとても楽しい十かなり楽しい58.9%（55.8%）、学校生活に満足している66.5%（60.9%）」など、学校が大好きな生徒が近年では最も多かった81回生をも上回っています、ほっとしました。そのような厳しい指導を肯定的に受け止められたのは、「6時半までに起床

（37.3%）」と総じて早寝早起きで、「昼食はお母さんの手作り弁当（59.3%）」などお母さん方の優しい頑張りのお陰で、基本的な生活習慣が身についた明るく健康的な生徒が多かったからだと思います。

その結果、模試の成績を四国内の優秀校と比べても、成績不振の生徒を少なくできました。学年が二極化することなく、生徒同士が支えあって「全員第一志望現役合格」を目指して頑張る雰囲気を作ることができ、現役合格率80%となりました。

また、学校全体の「こまめな指導」にも支えて頂きました。例えば、進路指導部を中心に行われた面接・志望理由作成指導、小論文の添削、グループディスカッションなどのお陰で、高知大医学部AO入試は、県内合格者15名中8名の合格者を出すことができました。また、未履修補修問題は、教務部長の島崎先生をはじめ多くの先生に助けて頂きましたお陰で、「何でいまさら...という気持ちもありましたが、午前中4時間あっても全く疲れず、今まで習ったことがない先生の話



も聞けて、この先生の授業も受けてみたかったなあと思いました。」という生徒の声や、学校批判どころか「こんなにいい生徒に育ったのは学校の先生のお陰」というお母さんの新聞投稿に、苦しい思いの担任団も支えられました。

「昨日は、家庭科の授業が最後で、小川先生が、別れるのが寂しいと少し泣きながら言ってくれました。今日は、世界史の補習の終わりにみんなで記念撮影！西峯先生からもうれしい言葉をいただきました。本当にいろんな先生にお世話になっていて、大事にしてもらっていたんだと実感した今日この頃でした。」とホーム日記にありました。本当に皆さんの方々に支えて頂いたお陰で、学年全体で頑張れたのが「82回生の勝因」ではないでしょうか。

## 進学講演会 「親子で乗り切る大学受験」

河合塾 田村耕司 先生



6月9日（土）午後3時から、毎年恒例となった本校振興会主催の進学講演会が「RKCホール」で開催されました。今年は、本校会議室から外部へと会場を移しましたが、うれしい誤算で参加者が当初会場「高新文化ホール」の定員を大幅にオーバーした為、急遽会場を移したほどの大盛況ぶりでした。最終的には、参加者数600名強とおそらく過去最高であったと思います。参加者は中1から高3までの全学年の保護者・生徒にわたり、進学講演会に対する期待がますます大きくなっていることが伺えました。

今年も、河合塾の田村耕司先生を講師にお招きし、「親子で乗り切る大学受験」と題して約90分間にわたって、保護者の心構



振興会監事 島巻 淳

えや最新の受験情報、費用などについて、熱心に講演していただきました。配布していただいた冊子も非常に役立つ内容でした。保護者の方は、「初めて来たけれど、大学受験の事が解った。」「来年もぜひ参加したい。（高2以下）」などの意見を述べておられました。講演の内容（要約）は以下の通りです。

「受験期に不安を感じたことがありましたか？」という問いに、85%以上の保護者の方が「Yes」と答えられます。その原因のひとつに、子供たちの「コミュニケーションの難しさがある」と思っています。受験直前期になってからはじっくりと話し合う機会は取れないもの、早い時期からの場づくりが大切です。その秘訣は、日常の中で、まずは子供たちの考え方や目標を「知る」こと、次にそれを「認める」こと、そして最後に「励ます」、あるいは「叱る」こと。言い換えれば、いきなり「叱る」のではなく、「知る→認める→励ます」のステップを大切にしてください。このステップを大切にしてください。大学入試センター試験をはじめとする「入試情報」、早い時期に話し合っておいていただきたい「マネー情報」、さらには子供たちへの「おすすめ学習法」など、興味のあるものから少しずつでも話題にしていただき、「コミュニケーションを深めていただく」

かけにしてください。最近では、18歳人口の減少にもなっており、「大学全入時代」とも言われていますが、実際はどうでしょうか。大学そのものの競争が激しくなる反面、「行きたい、入りたい」大学や学部の人気が変わっていません。但し、最も入試が厳しかった'90年代前半に比べると「努力が報われる時代が到来した」と言えると思います。それゆえに、過度な情報に惑わされることのない、将来の進路をしっかりと思慮した「大学・学部選」が大切になります。

私は、「大学入学が決してゴールではない」と、塾生たちに言い続けてきました。ぜひ「将来の高い目標を掲げて果敢に挑戦する」気概で受験期を乗り切ってください。人ひとりが「輝かしい栄冠」を勝ち取られることをお祈りいたします。



# Nice to meet you!

新任のアンドリュー先生に自己紹介をしていただきました

My name is Andrew, and I'm a new English teacher here at Tosa High School and Junior High School. I grew up in Australia, but have loved travelling since a young age. I first lived in Japan when I was an exchange student at Kansai University for one year. I have taught English in

Korea for three years and at Kitagawa-mura for two. I have many interests, including photography, cooking, hiking, cycling and studying foreign languages. I am very happy to be here.



新しい英語の先生のアンドリュー・ウォーレスです。オーストラリア育ちですが、小さい頃から旅行が大変好きでした。初めて日本に住んだのは大学生の時、関西大学の交換留学生として1年間勉強しました。その後韓国で3年間英会話教師として、また北川村で2年間国際交流員として働きました。趣味は写真を撮ること、料理、ハイキング、サイクリング、外国語を学ぶことです。どうぞよろしくお願ひします。  
(この日本語訳はアンドリュー先生ご自身が書かれたものです。)

## 芸大教授がオケ部を指導

5月11日、12日の両日の放課後、本校オーケストラ部に、東京芸術大学准教授であり、国内外でヴァイオリン奏者としても活躍されていらつしやる松原勝也先生が指導にお願いしていただきました。本県出身の松原先生は、県内の高校オーケストラ部の指導を希望があり、本校の振興会保護者とのつながりもあつたことから、今回の企画(？)が実現しました。テレビカメラも入り緊張した中、生徒達は先生の教えを一生懸命聞き、演奏していました。見学した保護者も生徒達の演奏がみるみる上達していく様子に驚いていました。練習後は、素晴らしいプロの演奏も聞かせて頂き、皆大変満足しておりました。

松原先生は「技術的な面では、自己流な部分もありますが、生徒達がこちらの指導内容を的確に理解し、音楽的なものを共有し上達し変わっていく姿に感動しました。また、先生方をはじめ、関係者の皆様にも喜んで頂いたと後で聞き、高知での2日間に充実感を覚えていま



す。」との感想を下さいました。以下は生徒達の感想です。「皆の音を聞いて合わせる事でどれだけ音楽が変わるか、きれいに聴こえるのかがとてもよく分かりました。弓の持ち方、力の入れ方、感情などですぐに音が変わつてしまうのにびっくりしました。レベルの高さは、技術面と表現面で感じました。技術を磨くだけでなく、普段からどういふ音を出したいのか意識して練習しようと思ひました。先生にヴァイオリンを演奏して頂き、非常に刺激を受けました。とても繊細で、迫力があり、感動しました。初めは、堅苦しく感じましたが、最後には、とても生き生きとした演奏が、最後には、とても生き生きして、表情豊かな音楽になる事ができたと思ひます。たくさんの事を教わり吸収する事ができ、後々の練習に役立てたいです。

振興会理事 竹内多恵子

## 高校生のための金曜特別講座

今、放課後5時半からL1教室で金曜講座を開講しています。これは東京大学の大学院総合文化研究科教養部が高校生に学問研究の面白さを伝える目的で開いている公開講座です。東大駒場キャンパスで毎回違うテーマで講義が行われ、それを地方高校約40校にインターネットで同時配信しています。講義後の質問時間には地方の高校生からも、カメラマイクを通して東大の会場に質問が可能で、駒場会場の高校生よりもむしろ活発に意見が寄せられています。内容を少し紹介します。

### 「イタリア」

木村凌二

ポンペイ遺跡を通し、ローマ時代の人々の生活を探る。遺跡とそれをと再現した住居や公共建築物の復元画像が対比して映し出された。これがとても美しく印象的。

### 「関レベルヌイ数をめぐって」

織田孝幸

数学(数列)のかなり難しい話。

それでも講義後、静岡県富士高校から「ベルヌイ数がゼータ関数にどのように応用されるのか概略を教えてください」との質問が発せられ地方にもすごい高校生がいるのだと驚かされた。

### 「万機公論に決すべし」日本の民主化の世界的意味

三谷博

日本は明治期、欧米でしか行われていなかった民主的政治を自らの手で作り上げようと努力しある程度達成した。この歴史と現在の政治・特にイラクなどの非西洋世界の民主化問題と関連させた講義。ラサール高校からインターネットの匿名性について、かなり食い下がった質問が面白かった。追手前高校からも14人が参加。

### 「物理の常識は世界の非常識」

久我隆弘

レーザー光を当てることにより物質は冷却できる、しかもどんなに冷却しても気体は液体にも固体にもならない……という話。数学と同じく高度な内容であったが、実験や図表をたくさん示し、光のエネルギー、温度との

関連を説明。

### 「人類は地球温暖化に懸念な対応ができるか」

後藤則行

温暖化解決に潜む問題点を構造的に解説。切実なテーマだけに高校生からの質問が途切れない。前半の講義の部分より、質問部でこの問題の難しさがより鮮明になった。

現在参加生徒が少ない(各回数名程度です)のが難点ですが、今年一年引き続き開いていきます。保護者の方の参加も歓迎です。



「人類は地球温暖化に懸念な対応ができるか」

## 公正正大な新校舎建築プロジェクトに参加して

7月5日の土佐校評議員会、理事会において建築業者が決定され、日程・安全面での施策等も検討され、いよいよ新校舎建築の工事が始まることになりました。

ご存知のように新校舎建築の為の様々な検討会には、振興会の本部役員の方々にも参加していただき、保護者の立場から意見等を聞いていただきました。新校舎建築が正式に理事会にて承認され、本格的に動き始めてから設置されたプロジェクト推進組織には、私も保護者の代表として振興会会長の立場で参加をさせて頂きました。プロジェクト推進組織は、他に2名の理事の方、池上校長先生、三浦教頭先生で構成されており、設計業者・建築業者の決定に関して、最終的な理事会への答申案を作成する事が主な役割でした。その一年あまりの期間、保護者を代表し、是々非々の姿勢で、意見交換をさせて頂きました。そして、皆で検討を重ねた結果が、評議員会・理事会で承認され、実現

されてゆきましたが、その間、常に、学納金の値上げ等、保護者にとつて大きな負担を伴うこのプロジェクトの重要な意思決定の場に、保護者の代表として立ち合わせ頂いた事の重要性を感じながら、会に臨みました。そして、そのコンセプトに『公正正大な建築事業』を掲げたこの事業は、三菱地所設計の十二分な技術上のアドバイザー・説明のもと、各技術担当者の資質までを判断基準にした総合評価方式を用いるなど、本当に説明責任の果たせる内容になっていると思ひます。

しかしながら、今になると反省すべき点もいくつかあります。例えば、平成18年の7月下旬の振興会臨時評議員会で、支部の方から、「新校舎建築の正式な決定、学納金の値上げ等を新聞報道から知るようになった。何故、我々保護者が先に知られる事がなかったのか。その点が非常に残念だ。」というご意見を頂きました。理事会の承認を受け発表されるべきことでもあり、又、その後日程的なこともあって、事情を知るものとしてはやむを得ない部分もあつたと思ひますが、保護者の立場からすれば本場に「ごもっともなご意見でした。」

又、設計・施工業者選定の際には、色々な噂・流言が飛び交いました。公正な選定のために情報管理が必要とされた事情はありましたが、振興会のみならず、同窓会・教職員の皆様を含め、多くの関係者の方にはかかるべき情報をしかるべき方法で提供し、積極的なご協力を頂く体制作りという点においては、今ひとつ工夫すべきところがあつたように思ひます。

7月5日の土佐校評議員会においては、学校より施工業者の公募とその結果を踏まえた候補施工業者との交渉過程等、詳細なご報告をいただきました。今回のこの新校舎の建築事業は、その基本コンセプトにあるとおり『公正正大な事業』であり、土佐校の未来を託し、子供たちの学校環境に大きく寄与する事業であるという事を、自信を持って土佐校振興会会員の皆様にご報告させて頂きます。

振興会会長

徳永俊一